

知識として知っておきたいADHD

a) 基本理解

< ADHD (注意欠陥 / 多動性障害) = Attention Deficit Hyperactivity Disorder >

・ ADHDとは、不注意、多動性、衝動性の3つの問題が見られるセルフコントロールの発達障害である。

・ 「 / 」(スラッシュ)の意味は、「及び、または」ということ。つまり、「不注意」「多動性」「衝動性」の3つの症状全てを示す子どももいれば、「不注意」のみ、「多動性」「衝動性」のみという子どももいる。

・ ADHDは、「ある課題を今ここで、どう順序立てて実行していくか」ということに必要な脳の実行機能が未成熟と考えられている。実行機能がうまく作用するためには、課題遂行の間、情報を記憶として留める必要がある。この記憶を「ワーキングメモリー(作業記憶)」という。それ故、ADHDは、実行機能障害、ワーキングメモリー障害と言われることもある。

・ セルフコントロール、実行機能に重要な役割を果たす領域が脳の前頭葉にあり、神経伝達物質のドーパミン等が豊富に分泌される場所でもある。ADHDは、脳の血流検査等から前頭葉の活動が不活発であることがわかっており、それ故、神経伝達物質を増加させる中枢神経刺激剤(メチルフェニデート)が使用される。これまでは中枢神経刺激剤を含む医薬品として、睡眠障害等の治療薬であるリタリンが処方され、ADHD改善に効果を生むケースが多く見られたが、乱用等の危険防止のため慎重な処方が求められてきている。2007年10月には、同じく中枢神経刺激剤を含む医薬品であるコンサータが日本初のADHD治療薬として厚生労働省認可を受けたが、18歳未満限定薬である。

b) 基本対応

・ 「シール、スタンプ等のご褒美(報酬、賞)を用いる」、「できていることを褒める」、「行動の直後に褒める・叱る」、「指示は復唱させる」、「クールダウンの場(気持ちを落ち着ける場所)を設ける」等。

